

お知らせ



農縁倶楽部へ名称も新しく初の収穫祭を開いた↑新しい農園

1・秋の収穫祭の報告：農縁倶楽部より

10月26日(土) 場所：御井町府中公民館
ユニバ市民ネットワークとの共催

- ① 農園で採れたサトイモ、サツマイモその他を使った料理を作り賑わいました。
- ② 参加者は2デイサービスのお年寄り、託児所のちびっ子、大学と高専の留学生、地元御井町の皆さん、SNKメンバー約80名

2・津福サロンに水道施設を設置：委員会より

予定金額270,000円は11月24日に達成
：1,000円/1口、会員の皆様に募金をお願い
していました、ありがとうございます。

報告：水道施設設置委員会募金委員長 丸山クルミ

3・2013年秋のオフ会

11.24 ホテルニュープラザ久留米にて



豊富に準備されたオフ会のアトラクション、会員は芸達者

11.24 秋のオフ会は盛会でした、幹事さんありがとう

オフ会

(あとがき)地震や竜巻や大雨による自然災害が増え、被害も大きい1年だった。科学技術では防ぎえない地球の環境を考える。地球が小さくなったんですかね、先生が走る月です。(式)

SNK

SENIOR NET KURUME

編集・発行
NPO シニアネット久留米
理事長 小島紀夫
久留米市荘島町13-1
TEL 0942-46-2277

元気もんは、ミュージシャン

富士山が世界遺産に登録されたことで、和食を世界遺産へと掛け声がかかる。今や和食は世界中が知る食べ物と想定していたら案の定、TVでは和食無形文化遺産の話をしていて、なるほど、世界が認める和食であれば、世界の遺産として残すのも不思議ではない。農家や自然環境で育てられた旬の素材を用いる料理は、ただ単に食べるだけではなく見た目でも楽しむ。和食のもつその奥深さは、健康志向にも合致している。それに引き換え、日本ではどんどん伸びる洋風化、最近の食事はスパゲッティやカレーライスなどワンデッシュ化している、と話は続いた。

懐石料理は繊細できれいなもの、少量多品種で構成されている。特におせちは古来から伝わる和食の伝統を引き継いでおり、正月に家族が集まりみんなで食べるもの。1年の始まりにあって絆が強まる、と和食論者は語る。気候風土が培ってきた日本人の食生活は、山海の珍味を筆頭に、季節ごとに食卓をにぎわす自然のモノ・素材そのもので満たされていた。

現在では、味噌汁が絶滅危惧種となっている、というスピーチには驚いたが食事のはじまりに「いただきます」という言葉、食は文化の中心である、に誇張はない。

昔はどの家にも竈の神様がいた。コウジン(荒神)様、オクドサンとも呼ばれていた。家に居て家を守る神様として特別な日は餅を備え大事にされた。そして今日の台所は、洋食あるいは外国由来の食を調理する機会が増えて、和洋中を賄うだけの道具を必要とするようになった。おかげで、鍋釜から食器に至るまで、和洋中のいろいろを取りそろえる必要から家庭ではたくさんの器具が準備されることとなった。箸とともにスプーンも中華と洋食のスープ用を必要とするし、湯飲み茶わんの他、コーヒーカップもワイングラスもそろえることとなる。

パンもスパゲッティもご飯(米飯)も食べる関係から、キッチンには隙間なく椀やカップやどんぶりや皿が並ぶ。和洋中華がそれぞれの好みで調理され食卓をにぎわすこととなった。台所が大変だと云うものの、子どもたちが独立して家を離れた老人世帯では、男子厨房に入り、趣味でつくる男の手料理がはじまる。キッチンは活用されて役に立つが、主婦から大きな声も聞こえてくる「後片付けもして下さい」。シニア世帯ではキッチン戦争がはじまったりする。

山陰地方を訪ねた時、麦刈りと田植えが同時進行で準備されているのを見た。村集落ごとに神社の森が遠くに見える海沿いの国は、自然の脅威に備えて神社の幟がゆらりと翻る長閑さである。古い国には鎮守の森があり、祭りが暮らしの中に根を下ろしていた。村の鎮守に人は集まり1年を感謝し、村中の人が集まり酒と食事を作り踊った。ハレの日の舞踊は、大地をしっかりと踏みしめ、腰を揺り動かすしぐさが基本の形であり、それは豊穡や多産と深く結び付いている。

須佐卓郎氏の生国は長州・萩、そこにある誉は松下村塾。そして日本の維新を支えた若い志士たち、混乱の中で明日の日本を考えた郷土には強い自負がある。封建社会から奇跡的な明治維新を経て新しい社会構造を作った日本。だが今日では日本らしい伝統文化、東洋の古式を教える文化が失われようとしている、と警鐘の声を聞く。

漢詩を楽しみ、土地に残る話をデジタル化して残そうと考える。パソコン(MIDI)教室で講師を務め、古い話に曲や拍子を付けて歌ったり心模様を楽しんだりする。彼はミュージシャンでありながら志士である。寒い日、東日本大震災被災者救援311のための街頭募金活動でトランペットで呼びかけた(参照：広報SNK32号)、曲目はアメージンググレース。(編集長 一ノ瀬尚文)

シリーズ 元気もん

須佐卓郎という人

経歴紹介

SNK: 1998年会設立の発起人
理事長歴: 2003~2006
ミティ(音楽関係)講師
特技: 1・漢詩の世界を楽しむ
2・歌声フレンスボランティア

青春とは「我が信念」を生きることである。好奇心旺盛なシニアは努力する、諦めない。老練を生きたとはいえ、熱い想いは脳葉に溢れんとして未だ止まず。願わくば山郷に住む知恵の精、澄み湧き出でる仙峡の精。SNK同朋への想いは強く、ネットで豊に遊ばんとする。シニアに大切なことは「人生を楽しむ哲学を持つこと」と喝破した。清濁を合せ呑み、我ら青春を現在も生きる。

電子図書館を創った人

電子図書館

NEWふるさとの川	小川橋義 著 それぞれの川にまつわるエピソードをまじえることにしました。いわば川の今昔物語になりました PDF形式 要アドビリーダー
郷土の先達 真木和泉と田中久重	伊藤久 編 真木和泉、田中久重、共に幕末に活躍した郷土の先達で自分の信じた道を邁進、後世に見事な遺産を残した偉人である。PDF形式 要アドビリーダー
初手物語	真藤ミチヨ 口述 久留米の国分に住んでた方で激動の時代、激動の人生を生きてこられた生の声を口述した記録本です。
古代九州物語	伊藤久 編 九州にも素晴らしい歴史がたくさうずもれています。改めて思い起こしましょう PDF形式 要アドビリーダー
秋月家から見た九州の歴史	石井秀夫・伊藤久 共編 秋月家は古代から名の知れた名家で、九州の歴史を垣間見る貴重な書物です。PDF形式 要アドビリーダー
久留米ん昔話	松田康夫 著 昭和53年に発行された「久留米および近郊の昔話」の集大成をデジタル化したものです。町ごとに、全て久留米弁での記述です。
田中吉政公とその時代	半田隆夫 著 筑後藩主として入国した僅か9ヶ年の間に、柳川街道 有明海開発等の治績大であった田中吉政について記されたものです。
高良山物語	倉富一 著 昭和9年発行。神代から昭和初期までの高良大社の詳しい歴史や伝説・民話を記した名著。
日向神紀行	恒屋一誠 著 昭和15年発行。大正末期やめ奥地の紀行文。格調高い文章で当時の奥八女の風景を描写。
筑後川を下る	頼山陽 著 文政元年(1818)筑後川を舟で下った山陽が、南北朝に思いを馳せ記した俳律。
久留米城の防禦体制	井手二郎 著 医学博士で郷土史家の井手先生が永年の研究を纏められた論文。
山土産	藤 隆長 著 文政8年(1825)発行された奥八女紀行文。絵入りで当時の風景が偲ばれる。
御井町誌	久留米市立御井小学校父母教師会編 創立百周年を記念して昭和61年に作られた御井町の歴史紹介の佳書ですが、内容に不備が見つかりましたので、修正検討中です。
ふるさと徳童	菊竹 武 著 田主丸町出身の著者が故郷徳童地区の歴史を詳しく解説したものです。
矢部村誌	八女郡矢部村 編 村制百年記念に刊行。美しい写真を配し、矢部村を鳥瞰した貴重な村誌。
安長禅寺物語	林 敏弘 著 千年の歴史を持つ甘木市の古刹「甘木山安長禅寺」に関する力作です。
みのうの豆本	耳納北麗の1市3町を詳しく紹介した豆本。
大城村郷土誌本	野口治七郎 著 今は北野町に合併されているが、その昔農民の血と汗の記録を基にして、当時の時代背景を克明に追及した名著。
大木町誌	大木町誌編纂委員会 編 平成5年発行された大木町誌のデジタル版です。

筑後デジタルアーカイブ」は、財団法人「地域総合整備財団」<ふるさと財団>の「平成14年度 e-ふるさとパイロットプロジェクト」に応募して採択され、助成を受けた事業です。この事業は地域に存在する貴重な歴史遺産や郷土資料、文化財などをデジタル化して 後世に継承していく事を目的としています。

筑後川・矢部川流域歴史探訪、神社仏閣、文化遺産、祭、伝統芸能、筑後三十三ヶ所観 音霊場などの取材とデジタル化、また世の中から忘れ去られた本や、図書館や家庭で眠っている貴重な本をデジタル化し「電子図書館」としてインターネットで読めるように公開しています。URL <http://snk.or.jp/cda/index.html>

※ このホームページは国立国会図書館のデータベースにリンクされています。

デジタルアーカイブ

高良大社の展望台から筑後平野を眺めていた時、古代からこの筑後川流域での時代変遷をデジタル化して保存出来ないかと思いつき、MLで呼びかけたところ、多くの賛同者が集まった。また資料提供の申し出も有り、そこで取材版と制作班を作り、筑後川矢部川流域歴史探訪のHPの制作に取りかかった。

三井町史や矢部村史、及び多くの歴史書のデジタル化、久留米城と有馬藩の歴史、そして筑後三十三観音霊場等をHPにして載せた所、総務省からの助成金を頂いた。



2000年SNKの活動を伝えるTV、モニターには須佐氏



SNK10周年記念行事で実力を披露したチッゴアミーゴス

チッゴ・アミーゴス

NHKの取材、六角堂でのSNK 10周年記念で、庄島幼稚園児達の踊、筑後酒つくり唄、いろいろたくさんetc 楽しい思い出がある。

健康歌声フレンス

加齢と共に呼吸力も衰えてきます。当然、血液の中の酸素量も減少して五臓六腑の活動も弱くなります。いつまでも若い活力を保つため、深い呼吸の方法を覚えるには歌うことが最適です。

会場: ふれあいホール
開催: 奇数月の最終土曜日PM
チャリティ歌声の集い事務局
TEL.0942-38-3751

↑写真はSNKによる311被災者救援街頭募金活動の雄姿(広報第32号より転載)

漢詩句行

父が旧制中等学校の漢文の教諭だったので家には沢山本があり、門前の小僧、拾い読みをしている内に何となく意味が分かってきた。兵馬俑に見られるような壮大な国土と思想、そして勿頭の友から感じられる厚い人情等、胸をときめかしながら読んでいた。最近蓮根のように穴が空いてきた脳を少しでも埋める為に、毎朝漢詩を一句、MLを煩わして自分のトレーニングとして会員に迷惑をかけている。漢字には一字一字表情があり、読む人の頭の中で大きく広がって世界最高の詩と言われている。唯、中国の古代史を知っていないと意味が分からなかったり、表示されない文字があるので、その分別が大変だけれども、根気の続くかぎり頑張ってみようと思っている。

MIDI教室

パソコンで音楽演奏が出来るという夢のような時代になった。ピアノが弾けなくても、マウス一つでショパンやベートーベンの交響曲まで演奏出来る。そこでSNKでMIDI教室を開講し多くのメンバーに楽しんで頂いた。オフ会の時、自作のマンボ9 No5で皆が踊っている姿をみて涙を流しておられた生徒Eさんのお顔が目につく。今は歌曲や合唱曲に取り組み、時代の先端に行く「初音ミク」に取り組んでいる。

BO2TRIO Guitar 小川俊一 Bass 清水龍美 Vocal 谷 真西美

久留米市通町 109-2 TEL.0942-38-3751

温故知新ライブ

カード(マルチナ) 4708 CHIKU

あなたのまの 筑邦銀行

※詳しくは窓口にお問合せください。